

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国10年7月) ～先行きは円高が下押し要因に

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI の下落率は 0.1 ポイント拡大

総務省が8月27日に公表した消費者物価指数によると、7月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI)は前年比▲1.1%となり、下落率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想(ロイター集計:▲1.1%、当社予想は▲1.2%)通りの結果であった。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲1.5%(6月:同▲1.5%)、総合は前年比▲0.9%(6月:同▲0.7%)となった。

消費者物価指数の推移

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
09年 4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	▲2.2	▲2.3	▲1.0	▲2.1	▲2.1	▲1.4
10月	▲2.5	▲2.2	▲1.1	▲2.4	▲2.2	▲1.4
11月	▲1.9	▲1.7	▲1.0	▲2.2	▲1.9	▲1.3
12月	▲1.7	▲1.3	▲1.2	▲2.2	▲1.9	▲1.5
10年 1月	▲1.3	▲1.3	▲1.2	▲2.1	▲2.0	▲1.4
2月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.8	▲1.8	▲1.3
3月	▲1.1	▲1.2	▲1.1	▲1.7	▲1.8	▲1.2
4月	▲1.2	▲1.5	▲1.6	▲1.5	▲1.9	▲1.4
5月	▲0.9	▲1.2	▲1.6	▲1.4	▲1.5	▲1.4
6月	▲0.7	▲1.0	▲1.5	▲1.0	▲1.3	▲1.4
7月	▲0.9	▲1.1	▲1.5	▲1.2	▲1.3	▲1.4
8月	-	-	-	▲1.0	▲1.1	▲1.4

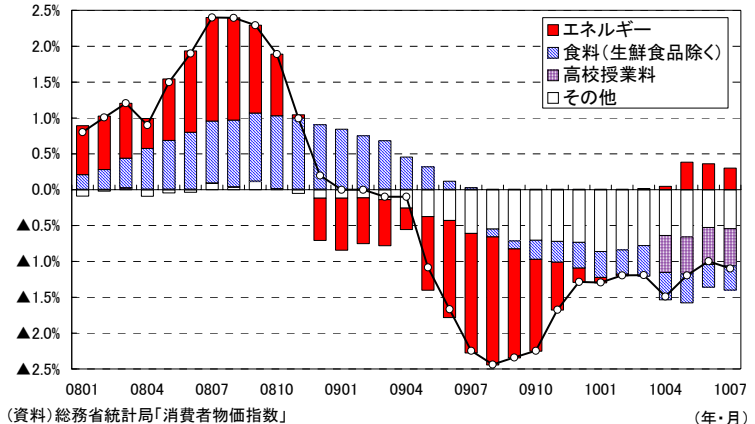
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、電気代(6月:前年比▲2.0%→7月:同▲0.3%)のマイナス幅が縮小し、ガス代(6月:前年比▲1.2%→7月:同1.4%)は13ヵ月ぶりにプラスに転じたが、ガソリン(6月:前年比13.6%→7月:同7.4%)、灯油(6月:前年比24.1%→7月:同18.2%)の上昇幅が縮小したため、エネルギー全体の上昇率は6月の前年比4.5%から同3.7%へと縮小した。

食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲1.4%(6月:同▲1.3%)と12ヵ月連続で下落し、下落幅は前月よりも拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.30%(6月は0.36%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.34%(6月は▲0.32%)、高校授業料が▲0.52%、その他が▲0.54%(6月は▲0.53%)であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

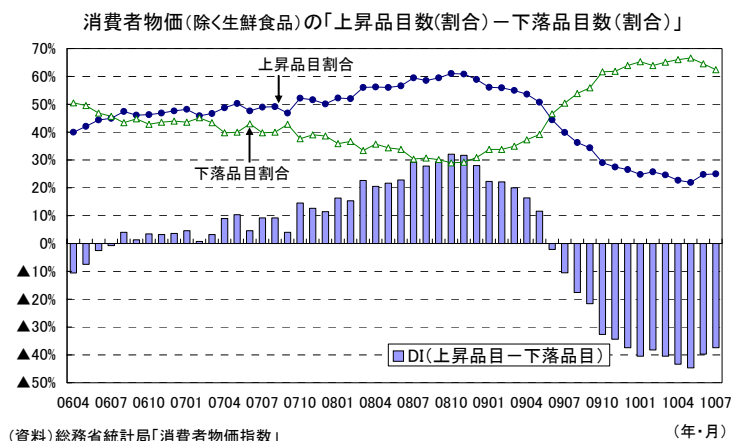


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

2. 物価下落品目数は2ヵ月連続で減少

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、7 月の上昇品目数は 131 品目（6 月は 130 品目）、下落品目数は 327 品目（6 月は 338 品目）となった。上昇品目数の割合は 25.0%（6 月は 24.8%）、下落品目数の割合は 62.4%（6 月は 64.5%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲37.4%となり、前月の▲39.7%からマイナス幅が縮小した。



3. 10月以降、たばこ値上げがコア CPI を 0.3%程度押し上げ

8 月の東京都区部のコア CPI は前年比▲1.1%となり、下落率は前月から 0.2 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：▲1.2%、当社予想も▲1.2%）を上回る結果であった。

ガソリン（7 月：前年比 5.6%→8 月：同 4.0%）、灯油（7 月：前年比 11.4%→8 月：同 10.9%）の上昇幅は若干縮小したが、ガス代（7 月：前年比▲0.5%→8 月：同 2.4%）が 14 ヶ月ぶりに上昇に転じ、電気代（7 月：前年比 2.2%→8 月：同 4.3%）の上昇幅が拡大したため、エネルギー全体の上昇率は 7 月の前年比 2.0%から同 3.8%へと高まった。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.7%（7 月：同▲1.9%）と 15 ヶ月連続で下落したが、下落幅は前月よりも若干縮小した。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.20%（7 月は 0.11%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.37%（6 月は▲0.43%）、高校授業料が▲0.38%、その他が▲0.57%（7 月は▲0.61%）であった。

景気の回復ペースはここに来て緩やかとなりつつあるが、物価の基調的な動きには今のところ大きな変化は見られない。ただし、円高の進展に伴い輸入物価、国内企業物価はすでに前月比ベースで下落に転じており、先行きは円高の影響が消費者物価にも徐々に波及することが見込まれる。

なお、10 月にはたばこの値上げが予定されており、これによりコア CPI は 0.3%程度押し上げられるため、10 月以降はマイナス幅が 1%を下回るだろう。